

地域保健

3

2022

●座談会

精神障害にも対応した 地域包括ケアシステムと市町村保健師 の役割

●鼎談

母子保健とコロナ禍



地域保健

ブックレット

出版記念
オンライン講演会

虐待予防は母子保健から 指導ではなく支援

開催日時

2022年4月17日(日) 13時~15時

講師

鷺山拓男氏

対象

保健師または児童虐待予防に関心のある支援職の方



発売中

善意はしばしば有害であり
熱意は非常に危険である
さらに正義はもっと危険

雑誌『地域保健』2019年5月号から2年にわたる連載12回分を収録。発行にあたり、地域精神科医である著者の立場から母子保健に携わる保健師への期待を書き下ろしで大幅追加。保健師だけでなく、虐待予防に関わる方にも読んでほしい一冊。

著者：とよたまこころの診療所 鷺山拓男

A5判128頁 定価990円(税込み)

ISBN978-4-924763-56-2 C3047

発行元：東京法規出版

CONTENTS

- 第1回 児童虐待を予防するための母子保健
- 第2回 家族機能不全と保健師活動
- 第3回 虐待を予防する援助関係と保健師の訪問
- 第4回 <事例紹介>国分寺市の母子保健の取り組み
虐待予防の3つの視点に基づく母子保健事業
- 第5回 虐待ハイリスクの親を支援するグループ
- 第6回 虐待の世代間連鎖を予防する保健師活動
- 第7回 「このままの私でやっていく」ことを支える保健師活動
- 第8回 母子保健の虐待予防における援助関係形成に求められるもの
- 第9回 新型コロナウイルス問題下での虐待予防「取り締まり」か「援助」か
- 第10回 子どもの虐待予防と母子・精神保健
- 第11回 子どもの虐待死亡を防ぐ保健師活動
- 第12回 虐待予防の「いま」と「これから」

あとがき／参考文献(133本 abc順)

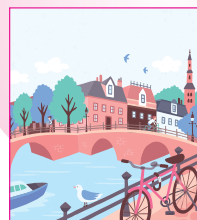
定員：先着 100 名

参加無料

お申し込み・詳細は地域保健 WEB イベントページへ

<https://www.chiikihoken.net/event/2022/02/14/9092>





【座談会】

6

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムと市町村保健師の役割

〈出席者〉 齋藤綾子さん（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課）＝司会
藤井千代さん（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）
森永裕美子さん（岡山県立大学）
二飯田真由美さん（川口市保健所）
川上美都江さん（米子市福祉保健部）

【鼎談】

24

母子保健とコロナ禍

〈出席者〉 中板育美さん（武蔵野大学）＝司会
小川智詠子さん（新宿区四谷保健センター）
松下倫子さん（大東市保健医療部）

2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 米満 葵さん（鹿児島市保健部保健支援課）

40 寄稿 ▶ 『令和元年度社会保障費用統計』の結果について

国立社会保障・人口問題研究所 社会保障費用統計プロジェクト

64 レポート ▶ 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会

68 ニュース ▶ 令和3年度保健師活動領域調査（領域調査）など

74 活動報告 ▶ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応業務マネジメントと体制構築
弘中千加（平塚保健福祉事務所秦野センター）ほか

78 ピープル ▶ 中村舞斗さん（NPO法人虐待どっとネット 代表理事）

90 情報BOX

96 次号予告／奥付

連載

46 東京保健師ものがたり《第6回》／和泉慶子

60 オンライン市役所だより《第6回》
／保健師とつながろう課

62 ESSAY 国際保健《第48回》／松田正己

82 保健師のための閑話ケア《第99回》／藤本裕明

86 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第84回》／中臣昌広

ひよこ

ホップ★

ステップ★

ジャンプ!

よねみつ・あおい

米満 葵さん

● 鹿児島市 保健部 保健支援課

目の前にいる人と常に向き合っている
全ての事業をつなげて考えられる
保健師になりたい



職場近くにあるウォーターフロントパークから見えるのは桜島。鹿児島ならではの絶景だ

精神障害にも対応した

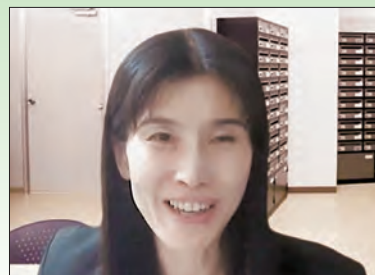
地域包括ケアシステムと

市町村保健師の役割



◆厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課

齋藤綾子さん 司会



◆国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

藤井千代さん



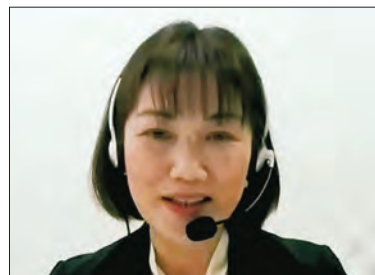
◆岡山県立大学

森永裕美子さん



◆川口市保健所

二飯田真由美さん



◆米子市福祉保健部

川上美都江さん

精神障害者施策が入院医療中心から地域生活中心へと移行する中、平成29年2月に精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して暮らしていけるように、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の考え方が打ち出された。令和3年3月の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」報告書では、市町村などの基礎自治体を基盤に重層的支援体制の構築を目指す等の方向性が示され、同年10月から始まった「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」でも具体的な仕組みづくりに向けた検討が続いている。

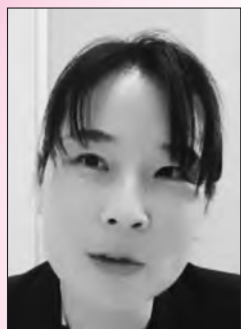
同システムの構築において、市町村保健師に期待されるものは何か、業務にどのような影響があるのか。先進的な取り組みを行う市町村の保健師と同システムに詳しい専門家が集まり、意見交換を行った。



新型コロナウイルスの感染拡大で対面事業の多くは滞りを余儀なくされた。特に感染被害が大きかった都市部の保健師は、コロナ対応と通常業務を並行してこなさなければならず、平時に比べ何倍もの精神的・身体的負担があったと思われる。そうした中でも子どもの成長は待ってくれない。母子保健の分野では、でき得る限り訪問の継続などに努めた自治体もあった。一方、コロナ禍におけるライフスタイルは、子どもの心身に悪影響を及ぼしているといわれる。

鼎談では、コロナ時代の母子保健に焦点を当て、事業を進めるための工夫、課題に加え、母や子の異変などについて語り合う。

出★席★者



松下倫子さん
◎大東市保健医療部



小川智詠子さん
◎新宿区四谷保健センター



中板育美さん
◎武蔵野大学Ⅱ司会

鼎談

母子保健と コロナ禍



中村舞斗

さん

●NPO法人虐待どっとネット 代表理事

もう、誰にもあのとときの自分と同じような思い
をしてほしくない

「虐待を受けた子どものAYA世代（思春期および若年成人）の支援環境を構築する」というテーマを掲げ、虐待どっとネットを立ち上げた中村舞斗さん。この組織の立ち上げには、虐待サバイバーとして多くの社会の壁にぶつかり、もがきながら生きてきた自らの実体験が投影されている。その生い立ちから、虐待どっとネットの設立・運営に至るまでの経緯や思いを話してもらった。

●取材・文……………白井美樹（ライター）

幼少期に虐待を受け 思春期にはネグレクトに遭う

中村さんが幼少期を過ごしたのは、お母さんがシングルマザーとなつて戻った実家だった。祖母と叔母3人と一緒に生活。その家で虐待を受け続けたのだという。

「母は朝から夜遅くまで働き、家で顔を合わせることはほとんどありませんでした。母が出かけている間に、僕が虐待を受けていることなど、全く知らなかったようです」

「しつけ」と称した虐待は小学生の間ずっと続くが、中村さんにとってはそれが当たり前。でも、何か変だなとも感じていた。そして中学3年生のとき、ついに自分の中で限界が訪れる。暴力を振るわれている事実をお母さんに告げて助けを求めたのだ。

「母は怒って、僕を連れて家を出て2人で暮らし始めました。ところが母はそれまで家のことを一切やったことがなく、母親業が全くできない人でした。今度はネグレクトが始まってしまったのです」

高校に入学したものの、お母さんが何日も家を空けることも多く、まともに食事もとれない日々。学校で話すと、児童相談所が介入することになった。しかし、通っていた高校が他県だったことなどもあり、児童養護施設には入所できなかった。

家に帰ると、児童相談所の介入にショックを受けたお母さんに「一緒に死のう」と包丁を向けられ、恐怖から思わず殴ってしまったという。そして家には警察が来て、中村さんは精神科病院に入院となった。

特集

医療的ケア児と家族への支援

●〈座談会〉医療的ケア児と家族の支援に対する保健師の役割

<出席者 五十音順>

高橋昭彦さん（特定非営利活動法人うりずん/ひばりクリニック）

当新卓也さん＝司会

英 早苗さん（一般社団法人在宅療養ネットワーク）

藤原啓子さん（横浜市教育委員会事務局 学校教育企画部特別支援教育課）

●医療的ケア児の支援を取り巻く動き

●きょうだいさんへの支援

清田悠代（NPO法人しぶたね）

●〈事例〉特別区の取り組み 杉並区協働提案事業 重症心身障害児・医療的ケア児（未就学児）のピア相談より 神保宏子（杉並区高井戸保健センター）

●〈事例〉特別区の取り組み 医療的ケア児等相談支援センター＜愛称Hi・na・ta（ひなた）＞の立ち上げ 江村ゆかり（世田谷区 障害福祉部 障害保健福祉課）

●資料集

新連載

なな先生の「ことばの発達教室」（仮）

てらだなな（ことばの相談室ことり）

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 松川官可さん（うるま市 健康支援課）

ピープル

五十嵐 匠さん（映画監督）

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
令和4年3月号令和4年3月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行
発行人 菅 国典
制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
株式会社 東京法規出版
振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】

TEL 03-5977-0300
FAX 03-5977-0385
ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
◎編集長＝須賀健次
◎編集員＝松岡康子本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

バックナンバー紹介

2020 年 11 月号

特集「コロナで進化・加速するオンライン&デジタル保健」

コロナ時代にあらゆる分野でオンライン化、デジタル化が推進されつつある。地域保健領域におけるこれらの潮流を概観する。

2021 年 1 月号

特集 1 「健康危機管理能力を高める」 —新型コロナ対策を中心に—

国の健康危機管理の視点から日本版 CDC や新型インフルエンザ特措法について解説し、地域の健康危機管理について座談会で語り合う。

特集 2 「コロナ禍とメンタルヘルス」 —コロナうつを中心に—

コロナうつやコロナ不安、自殺者の増加など、コロナ禍に端を発するメンタルヘルスの問題に対して打開策を探る。

2021 年 3 月号

特集「児童相談所と地域の関わり」 —これからの社会的養育推進に生かす保健師の視点—

児童福祉法等の改正を踏まえ、国は「新しい社会的養育ビジョン」を打ち出している。社会的養育推進における保健師の役割などについて、座談会で議論し、取り組み事例を掲載する。

2021 年 5 月号

特集「保健師人材育成のいま、そしてこれから」

第 1 部ではコロナ前から進んでいる保健師の現任教育を整理、第 2 部では平時と健康危機時を見据えた人材育成について深掘りする。また、新人でいきなりコロナ禍を経験した保健師たちの座談会も掲載。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部
FAX : 03-5977-0385

(2009 年 3 月号まで)	837 円 (税込) + 送料 154 円
※バックナンバーの価格 (2009 年 4 月号～2016 年 3 月号まで)	942 円 (税込) + 送料 154 円
(2016 年 5 月号から)	1,507 円 (税込) + 送料 154 円

2021 年 7 月号

特集「生きづらさを抱える女性たちの支援をどうするか」

—ウィズコロナ・ポストコロナの地域の課題—

コロナで生じた地域への悪影響のうち、生きづらさを抱えている女性の問題にスポットを当て、保健師としてこの課題にどう向き合うべきかを考える。

2021 年 9 月号

特集「貧困家庭の子どもへ必要な健康支援」

貧困家庭では健全な生活習慣を育むことが難しく、子どもの有病率は高いといわれるが、子どもへの支援は必須ではなく、自治体に任されている。この問題に保健師はどう向き合うか。

2021 年 11 月号

特集「子どもの性と向き合う」

—包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて—

包括的性教育やプレコンセプションケアの視点から、保健師が子どもの性とどのように向き合ったらよいのかを考える。

座談会「保健活動におけるデータとエビデンス」 —EBPM、ICT、AI の時代に—

EBPM、ICT、AI の巨大な潮流の中で保健活動はどのように変わっていくのか。保健師業務におけるデータやエビデンスの扱いについて語り合う。

2022 年 1 月号

新春座談会「コロナ禍における統括保健師の役割」 —不安と混迷の時代に—

非常時と日常が混在する中で、自治体保健師の取りまとめ役である統括保健師が果たすべき役割は何か。混迷の時代における統括保健師の役割について考える。

特集「『高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施』の推進—コロナ禍でいかに進めるか—

コロナ禍で対面交流事業が難しくなった。一方、自粛生活は高齢者の心身の機能を低下させる。コロナ禍における高齢者の健康づくりを保健事業と介護予防の一体的推進の立場から整理、自治体の好事例を紹介する。

『地域保健』購読のご案内

- 年 6 回、隔月〔奇数月〕1 日発行
- B 5 判、総 100 頁（本文 96 頁、表紙 4 頁）
- 価 格 1 冊あたり 定価 1,507 円（本体 1,370 + 税 10%）、送料 154 円
- 年間購読 《公費前納および個人》 8,137 円（税込、送料弊社負担）
- 年間購読 《公費後納》 9,042 円（税込、送料弊社負担）
- ※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>

埼玉県立大学研究開発センター オンライン シンポジウム

「子どもの最善の利益とはなんだろう？」

支援者がお互いの強みを知り、地域で切れ目ない支えを考えてみる集い

今回、母子支援～子育て支援、社会的養護につながった若者のアフターケア事業まで各領域で活動をしている団体が集う場を企画しました。

今ほど、コロナ禍を経て、地域社会から孤立し、支援につながる事が難しいまま虐待やネグレクトなど、不適切な養育に至ってしまった家庭へのまなざしを持つ必要に迫られているときはないと考えます。

「子どもの最善の利益とは何か」、そのための地域資源による切れ目のないサポートができないかを皆様と考えていきたいです。

諸団体・諸機関の連携のきっかけづくりの場とできれば幸いです。

日時：第2回 4月30日(土) 13:00～16:00

*第1回は終了しました。

形式：オンライン シンポジウム形式 ZOOM にて開催

対象：子ども・療育者を支援している団体、行政、社協、その他関係者
地域で子どもを支えたいと思っている方

内容：埼玉県内にて各領域で支援活動をしている団体の活動紹介、情報交換・交流会

主催：埼玉県立大学研究開発センター

共催：一般社団法人コンパスナビ、NPO 法人リマインド

後援：埼玉県



活動紹介団体

*第1回は終了しました。

第2回

4月30日(土) 13:00～16:00

NPO 法人リマインド

彩の国子ども・若者支援ネットワークアスポート

NPO 法人さいママ

ヘルシーカフェのら

NPO 法人さいたまユースサポートネット

公益社団法人やどかりの里

ハピママメーカープロジェクト

一般社団法人あんしん母と子の産婦人科連絡協議会

NPO 法人ぶるすあるは

一般社団法人 Master Piece

NPO 法人ピッコラーレ

多様な学びプロジェクト

【参加費】
無料

お申込みはフォームメーカーにて登録をお願いいたします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/22f24c8a159509>

【お問合せ等】埼玉県立大学研究開発センター 電話 048-973-4383



←こちらから